

上益城郡教科等研究会（中学校社会科部会） 平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

課題追究の中で達成感を味わえる授業をめざして
～民主主義の担い手に必要な資質・能力の育成をめざして～

2 研究経過

月日（曜日）	活動内容	活動場所	人数
5月25日 （木）	第一回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 昨年度反省、本年度研究テーマ協議、研究組織づくり等	嘉島町立 嘉島中学校	23名
8月18日 （金）	第二回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（一日） 教材開発に係る地域巡検（通潤橋、サントリー九州工場）	山都町 嘉島町	20名
11月6日 （月）	第三回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 研究授業 単元：歴史的分野「モンゴルの襲来と日本」 授業者：山都町立清和中学校 佐藤 直見 教諭	山都町立 清和中学校	15名
1月26日 （金）	第四回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 実践研究発表協議会	嘉島町立 嘉島中学校	22名

3 研究の概要

(1) 研究の内容

研究テーマ「課題追究の中で達成感を味わえる授業づくり～民主主義の担い手に必要な資質・能力の育成をめざして～」のもと、「課題設定の工夫」と「効果的な話し合い活動」の2つを実践項目の柱として研究に取り組んだ。

地域巡検では、三分野において授業の題材、資料の開発につなげることを意識して見学、研修を行った。通潤橋では、通潤橋が建設される当時の歴史的背景はもちろんのこと、平成28年熊本地震を受けてどのように橋が再建されていくのか、観光行政のあり方について学ぶことができた。また、サントリー九州熊本工場では震災から立ち上がる企業の姿と地域や行政とのつながりについて学ぶことができた。

研究授業および授業研究会では、1年生歴史的分野「モンゴルの襲来と日本」について取り扱い、研究テーマと重点実践内容にせまることができた。課題設定の工夫として、ICT機器を活用して資料の提示の仕方を工夫し、生徒に問題意識を持たせることにした。またワークシートを生徒の思考の流れに沿うように資料や生徒の記述欄を工夫して配置し、導入で確認した課題について問題意識が持続し、なおかつ思考が深まるようにした。話し合い活動ではジグソー学習を取り入れ、話し合いが活発になされるように工夫した。これらの手だてにより、生徒の中に「なぜ、どうして」という学習意欲がわき、追究活動の持続がなされていた。授業ではいくつかの課題も見られたが、一人ひとりの授業につながる、すばらしい検証授業であった。

実践発表協議会では、二人の先生の実践発表を通して、今年度の取組について検証を行った。今年度の成果と課題をまとめるとともに、新たな課題の発見につながった。特に「課題設定の工夫」と「ICT活用の留意点」については次年度への課題となった。

(2) 成果と課題（○成果 ●課題）

- 課題設定の工夫を様々な視点から行うことができた。特に、生徒に提示するめあての中に具体的な活動を入れることにより、活動が促されることがわかった。
- 目的を意識した地域巡検により、実際の授業に活用できる情報を収集し、資料として扱うことができた。
- 資料の精選に迫ることができたが、資料を扱う際は「提示の工夫」も大切であることが実感できた。また生徒に与える情報が多すぎて、思考が拡散する場合がある。収集した資料を全て生徒に提示するのではなく、さらに精選が必要である。
- 授業実践を通して、「話し合い活動」については、どの学校も課題であることがわかった。より深まりのある話し合い活動のためにどのような指導の工夫改善が必要か、今後も検討が必要である。

4 実践事例

(1) 授業の概要

1年生歴史的分野「モンゴルの襲来と日本」の研究授業を山都町立清和中学校の佐藤直見教諭が行った。学習課題を「元寇の後、なぜ御家人の生活は苦しくなったのか説明しよう」とし、「複数の資料を活用して、元寇後の人々の生活の様子を判断する」というねらいにせまった。授業内容において、特に意識されていたのは次の3点である。

- ① 導入で、ICT機器を効果的に活用して前時の復習を行い、本時の学習課題に結びつける。
- ② 写真やグラフなど資料を精選し、思考の深まりを促す。またワークシートでの資料の配置も工夫する。
- ③ 個人の意見を尊重し、互いがより良い意見を述べ高め合うような協同学習を設定する。

①について、導入の工夫では、これまでの学習に関する資料を大型テレビで提示し、丁寧に説明していくことで、本時に関わる知識を確認することができた。テレビを活用することで、資料への注目度を一気に集めることができ、生徒の関心を引き付けるうえでもたいへん効果があることが再認識できた。さらなる改善案として、資料のみならず、本時で活用するキーワード（知識）をカードで提示するなどすれば、一部の生徒の反応だけでなく、全生徒にとって確実な振り返りがなされたのではないかという点である。



【大型テレビを使っでの導入】

②については、表、史実資料、地図など様々な視点での資料を提示することで、生徒の思考を深めていた。また、ワークシート上での資料の配置が工夫されており、生徒にとって、複数の資料を比較、関連付けやすいものとなっていた。参観者からも好評の声が上がり、ワークシートの作成方法などたいへん参考になった。改善案としては、資料と学習のねらいの整合性である。資料を多く扱う社会科であるからこそ、その資料が、本時の「検証」や「考察」にどう結びつくのか、しっかり吟味する必要があることがわかった。



【ワークシートにしっかり記入する生徒】

③については、ジグソー学習と全体での話し合い学習を取り入れ、活発な話し合いがなされた。班の構成や係分担も工夫されており、日ごろから話し合い活動が訓練されている事がうかがえた。また、考えることが苦手な生徒にとっても、少人数の中で他の人に質問したり、他の人の考えを参考にしたりすることができ、協同学習の効果が見られた。さらなる改善案としては、「班ごとに読み取る資料が決められていたが、自分の関心のある資料を選んで、それで班を構成するとさらに話し合いが活発になるのではないか」、「ジグソー学習の段階で個人にしっかりと考えをつかませて、次の全体での話し合い活動につなげる」などが出された。話し合い活動、協同学習については、どのようにすれば生徒の思考の深まりが図られるのか、どの学校でも課題となっている。協議の中で、「話し合いの目的を明確にする」、「課題を解決するのに適した形態を吟味する」など、様々な改善策が出された。来年以降の課題である。



【活発に話し合いを行う生徒たち】

授業全体として生徒が活発に活動し、考える授業であり、多くの先生方の参考になった。また、資料の作成法など一人一人の日ごろの授業実践につながる成果を得ることができた。



【丁寧に資料の説明を行う佐藤教諭】

(2) 学習指導案

第1学年1組 社会科 学習指導案

日時 平成29年11月6日(月) 第5校時

場所 1年1組教室

指導者 山都町立清和中学校 教諭 佐藤 直見

1 単元名

東アジア世界との関わりと社会変動「モンゴルの襲来と日本」

(東京書籍 p 76 ~ 77)

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、武家政権の成立から、その後の武家社会が展開していくあらましを、鎌倉幕府の成立と蒙古襲来を通して理解していく。鎌倉に幕府が開かれ、承久の乱をきっかけに執権政治が確立し、武家政権の基盤が固まった。しかし、蒙古襲来によって幕府の支配力は衰えていく。その背景には、将軍と御家人が土地を仲立ちとして御恩と奉公の関係で結ばれていた封建制度のしくみが大きく影響を与えており、同時に農民や土地を支配するしくみが根本から崩れていったことを意味する。また、東アジアの動向がわが国の武家社会に大きく影響を与えたことを扱う教材である。文化では、武家政治の展開や産業の発展と民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれ、地方の文化が発達したこと、この頃の文化が今日の文化につながることを捉えさせたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、計12名である。元気で活発な生徒が多く、発言も積極的である。NRT学力検査の結果では、全国偏差値平均54.4と全国を上回っている。分野別にみてもどの分野も正答率が65%以上で、特に公民的分野は77%ととても高い。知識や技能の習得もあり、考え方の基礎も身につけ、論理的な思考もできる生徒が多い。しかし、個人差が大きく、一斉指導では指示が理解できない生徒もあり、個別の支援が必要である。

(3) 指導観

主題を追求するにあたっては、効果的な資料の活用や多面的・多角的に考察できるように資料の提示の工夫を意識したい。また、グループでの話し合いやまとめ発表など学習形態の工夫によって、学んだ知識を活かし、自分の考えを広げることができる授業の展開を目指したい。

◎校内研究のテーマの関連

・UDの視点に立った授業展開の工夫

授業の流れを提示し、生徒が見通しを持ち、安心して授業を受けられるようにする。

・ICTを効果的な活用

ICTを活用し視覚的に資料をわかりやすく提示する。

3 単元の目標

- ・鎌倉幕府の滅亡、南北朝の動乱、室町幕府の成立、応仁の乱と戦国大名の登場を通して、武家政治の展開を理解させる。
- ・諸産業が発達し、都市や農村に自治的な仕組みが生まれるなど、民衆が成長していったことを理解させる。
- ・東アジア世界との関わりをモンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割を通して理解させ、その関わりが中世の日本におよぼした影響を考えさせる。
- ・室町時代の新しい文化の特色を理解させ、現在との結び付きに気づかせる。

4 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・元寇の後、御家人の生活が苦しくなった理由を、説明することができる。
〈思考・判断〉

(2) 本時の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点・評価	備考
導入	5分	1 元寇について復習する。	○元寇について、前時に学習した内容を振り返り、本時の課題をつかませる。	資料
T G 元寇の後、なぜ御家人の生活は苦しくなったのか説明しよう。				
展開	35分	2 資料をもとに御家人たちの生活が苦しくなった理由を考える。 3 自分の考えを班で発表し、説明を練り上げる。 4 班でまとめた意見を説明する。	◎資料をもとに、自分なりの考えをワークシートにまとめさせる。根拠を明らかにしながら理由を書かせる。 <u>能動型学習</u> <u>観点（思考・判断）</u> <u>B 基準</u> 1つの資料をもとに御家人たちの生活が苦しくなったことを説明できる。 （例） 資料1から 戦いに備えるために自分ですべてお金を出していたので生活が苦しくなった。 資料2から 幕府から恩賞がもらえなかったので生活が苦しくなった。 資料3から 領地を分割して受け継いだため、しだいに領地は狭くなり、経済力が弱くなった。 <B基準に達しない生徒への手だて> ・資料から読み取れるキーワードを抜き出させ、それをつなげて考えさせる。 ・同じ資料を選んだ生徒を同じグループにし、それぞれの意見を出し合い、説明できるように練り上げる。 ・違う資料を選んだ生徒でグループを作り、その中で説明する。	資料1 資料2 資料3 ワークシート
まとめ	10分	5 全体で出た意見を確認し、自分で理由を再度まとめる。 6 徳政令が出されたことで、御家人たちの生活がますます苦しくなったことを知る。	・他の人の意見を聞いて、再度自分の考えをまとめる。 <u>徹底指導</u> ・徳政令が出されたことでますます御家人たちの生活が苦しくなり、鎌倉幕府への不満が高まったことを抑える。	資料

評価基準A： 複数の資料から御家人たちの生活が苦しくなったことを説明できる。